

平成26年度基幹種雄牛「<sup>かつひろ</sup>勝洋」

宮城県畜産試験場

1 取り上げた理由

肉用牛集団育種推進事業による和牛産肉能力検定は、優れた宮城県産の種雄牛を造成し地域の肉用牛の改良を推進するため実施されている。産肉能力検定の結果、宮城県肉用牛改良委員会で「勝洋」が選抜され基幹種雄牛となったのでその特性を示し普及技術とする。

なお、平成26年12月から家畜人工授精用凍結精液が配布されており、平成29年に本県で開催する第11回全国和牛能力共進会においても活躍が期待されている。

2 普及技術

1) 和牛産肉能力検定済み種雄牛「勝洋」と産子の枝肉（ロース）



2) 特性等

- a 「勝洋」は父に「茂洋」、母の父に「安平照」、母の母の父に「茂勝」を持つ血統であり、茂金系、土井系からなる血統構成で質量兼備型の種雄牛である（表1、表2）。
- b 「勝洋」の産子は、現場後代検定の結果から、とくに脂肪交雑に秀でており枝肉重量、ロース芯面積、バラの厚さ、推定歩留ともに良好であり、子牛の発育においても平均以上の発育が期待できる（表2、表3）。

表1 生年月日、産地、血統、特性（優点、欠点）

生年月日	産地	父	母方祖父	母方曾祖父	優点	欠点
H21.1.7	石巻市桃生町	茂洋	安平照	茂勝	発育、体積、品位	尻の形、肘後

表2 現場後代検定

	頭数	出荷月齢	枝肉重量 (kg)	ロース芯 面積(cm <sup>2</sup> )	バラの厚さ (cm)	BMS No.	4等級以上率 (%)
去勢	11	30.0	492.3	68.7	8.6	7.8	90.9
雌	5	30.5	433.1	64.0	8.4	8.4	80.0
全体	16	30.1	473.8	67.3	8.5	8.0	87.5
全国(注)			451.5	55.0	7.6	5.6	

(注)：平成24年度広域後代検定平均値

(問い合わせ先：宮城県畜産試験場酪農肉牛部 電話0229-72-3101)

### 3 利活用の留意点

「茂洋」を父牛に持つ繁殖雌牛との交配は近交係数が高くなるので、注意を要する。

### 4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間 肉用種雄牛の検定（平成21～26年度）

2) 参考データ

表3 和牛産肉能力直接検定成績

1日平均 増体重	365日 補正体重	TDN余剰飼料 摂取量*	粗飼料 摂取率
1.27kg	462.3kg	-49	52%

※：TDN余剰飼料摂取量について

直接検定牛の飼料効率を表す指標で、一定の増体が確保された中で飼料効率に関する能力を把握するもの。0が平均値を、マイナスは飼料効率が良いことを意味する。



図1 「勝洋」の標準化育種価（SBV）\*

平成26年12月分析 第32回宮城県和牛育種価報告より算出

※：標準化育種価（SBV）について

- ・上記6形質について、県内繁殖雌牛の平均値を0として種雄牛の持つ遺伝能力（育種価）を次式によって標準化したもの。ただし、皮下脂肪厚については、薄い方が良いため±を逆と表示する。2～-2は標準偏差（σ）単位。

$$SBV = (\text{当該種雄牛の育種価} - \text{県内繁殖雌牛の育種価平均}) / \text{県内繁殖雌牛の育種価の標準偏差}$$

- ・標準化育種価の値が大きいくほど（グラフ横棒が右側に長いほど）好ましく、その大きさに個体の持つ能力・特徴を表すことができ、一般に1を超える場合は、その能力を強く有するものとみることができる。

※：育種価「A～C」評価について

- ・各形質において、上位1/4以上の範囲に入る育種価を持つ個体を「A」、上位1/4未満、平均以上の育種価を持つ個体を「B」、平均未満の育種価を持つ個体を「C」として表示。

3) 発表論文等

- 関連する普及に移す技術
- その他

石黒裕敏（2014），新しい基幹種雄牛「勝洋」号について，畜産みやぎ第269号，p10

4) 共同研究機関

全国和牛登録協会宮城県支部